

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 218号

平成22年3月2日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989

FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で…

久慈農業改良普及センター 公式

検索

久慈地方農業振興大会が開催されました

2月4日、久慈地方4市町村の農畜産物の生産者約480人が参加し、「久慈地方農業振興大会」が久慈市(プランドール)で開催されました。この大会は昨年度まで園芸部門のみ、担い手部門のみで別々に開催されていたものを統合し、畜産部門も加えて、久慈地方の農業をすべて含んだ形に構成し直したものです。

当日は、久慈地方農業表彰を始め、園芸生産拡大者表彰、畜産優秀者表彰などの各表彰が行われました。受賞者を代表して久慈地方農業表彰「明日を拓く担い手賞」を受賞した久慈市山形町の畜産農家である柿木敏由貴さんが謝辞を述べました。また、大会決議として「安全・安心な農畜産物の提供に努め、それぞれが目標を持って生産に取り組み、団結し、更なる産地拡大に努める」ことを久慈市の菌床しいたけ生産者である大鹿糠正行さんが力強く宣言しました。

その後昼食時には、地域の若い担い手である久慈地方農村青年クラブ連絡協議会の西会長が、創立40周年を迎えた活動の様子を紹介しました。今年、久慈市と洋野町をメイン会場として主催した岩手県農村青年大会の盛況ぶりや自分たちで作成したPRビデオを紹介し、会場から盛んな拍手を浴びました。

午後は、(株)南部美人の5代目蔵元、久慈浩介専務取締役を講師として「地域を元気に～農商工連携による地域活性化の取り組み～」と題した講演が行われました。岩手県オリジナル酒造好適米「ぎんおとめ」をつかった地元営農組合と連携した酒造りやグリーンツーリズム活動、糖類無添加の梅酒開発などの産地と結びついた取り組み、日本全国はもとより世界各地での販売活動などを熱く語っていただきました。参加した生産者のみなさんも大いに元気とやる気を得たようです。



会場の様子



生産者の表彰



4Hクラブ員による活動紹介



講師の久慈浩介氏

ヤマブドウ栽培・加工副産物の活用に向けて

～「ヤマブドウまるごと利用したアンチエイジング素材の開発」研究推進会議開催～

1月27日、盛岡市アイーナで、岩手県工業技術センターと久慈地方ヤマブドウ振興協議会等の共同研究「ヤマブドウまるごと利用したアンチエイジング素材の開発」研究推進会議が開催されました。

本研究は、ヤマブドウの栽培・加工副産物から老化防止の機能性を持った素材を開発することを目的に、平成21年度から3年間実施しているものです。

会議の冒頭、(社)農林水産技術情報協会山田プログラムオフィサーから「機能性に関する研究は注目度が高く、農水省でも期待しているテーマです」と挨拶がありました。

当振興協議会からは下川原会長が、原料生産のための低コスト防除体系下の病害虫の発生状況や果実・枝葉の農薬残留の状況を発表し、外部アドバイザーから「更なる農薬削減を検討できないか」などの要望を頂きました。

本会議を受け、枝葉の農薬残留の低減等、次年度に向けた課題が整理され、これらの解決に向け、研究計画を作成することにしております。



挨拶する山田プログラムオフィサー



本年度の研究成果について発表する下川原会長

アグリネットワーク 2010 青年の集いが開催される

～研究グループ「ネイル・オブ・サンダー」、県代表として東北大会へ選出！！～

去る2月16日～17日、盛岡市つなぎのホテル紫苑にて「アグリネットワーク2010 青年の集い」が県内青年農業者ら約130名の参加のもと開催されました。これは、日頃の活動や研究の成果を発表・討議し、農業青年相互の親睦と連帯感を培うとともに、農業者としての意欲向上を目的に岩手県農村青年クラブ連絡協議会および岩手県、岩手県農業公社の主催のもと毎年開催されているものです。久慈地方からは、近年最多となる12名の農業青年および新規就農者が参加し、県内各地の農業青年らと交流を深めてきました。

当日は農業青年活動実績発表会・意見発表会の県発表も兼ねて行われおり、地区選考会を突破した研究グループ6課題、意見発表6名の発表が行われました。当地方からは、研究グループ発表において洋野町内の酪農家で構成されるグループ「ネイル・オブ・サンダー」が「乳牛における蹄病の予防・対策システムの構築」と題し、会長の苗代沢佳智さんが発表したほか、意見発表では久慈市の大鹿糠正行さんが「職業、農業です～誰でも出来る、独自性・特別なことはちょっとだけ農業～」と題し、就農前後の思いや将来の経営ビジョン等を発表しました。

その結果、研究グループ「ネイル・オブ・サンダー」が岩手県知事賞にあたる最優秀賞を受賞し、意見発表の大鹿糠正行さんは優良賞を受賞しました。最優秀賞を受賞した「ネイル・オブ・サンダー」は、11月(予定)に福島県で開催される「第41回東北農村青年会議」の岩手県代表として選出されることとなりました。



研究グループ発表の様子

【新規就農者をご存じありませんか？】

皆様のお近くに、最近実家に帰ってきてきて農業を手伝っている後継者や、会社等を退職して新たに農業を始めた方などがいらっしゃいませんか？

そうした皆様の相談事に適切に対応できるよう、普及センターでは市町村や農業委員会等とともに新規就農に係る支援活動を行っています。久慈地方の将来の担い手の育成・定着を図るためさまざまな支援策を準備しておりますので、お気軽に情報をお寄せください。

【久慈農業改良普及センター新規就農担当 中西 TEL0194-53-4989】

生産性向上に向けた地力向上対策

農作物は、作物・品目によって生育に適したpHやリン酸のレベルは異なっています(図1、2)。土壌の肥沃度が低く、改良が必要な場合には、堆肥や土壌改良資材を施用して土づくりが行われてきました。

こうした努力の結果、現在では土壌中の肥料分はかなりの水準に到達しています。下記の図は県の実態ですが、全体的にリン酸とカリは充足傾向です。久慈の毎年の土壌診断の結果も同様の傾向にあります(図3)。

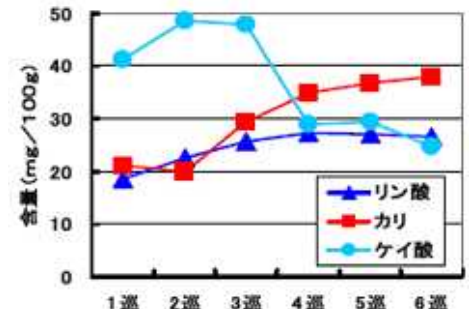
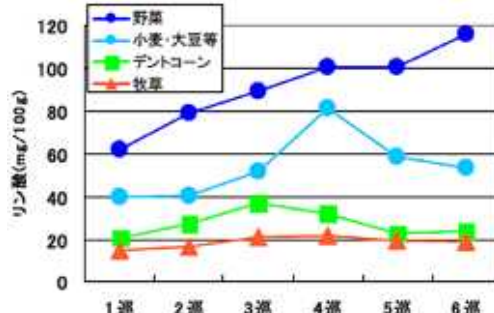
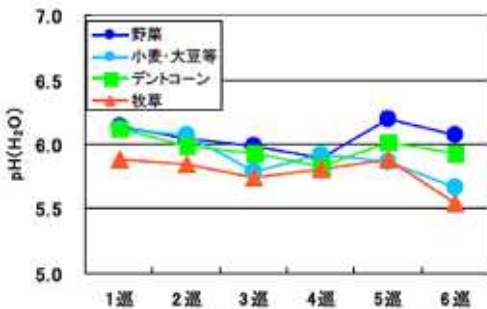


図1 品目別圃場の土壌 pH の変化

図2 品目別圃場の土壌のリン酸変化

図3 久慈地方の土壌養分の変化

調査年 1巡:S54-58 2巡:S59-63 3巡:H1-5 4巡:H6-10 5巡:H11-15 6巡:H16-20

また、一方で、以下の課題もあります。

水田

ケイ酸の低下、作土が浅い圃場や砂質土壌の圃場では秋に急激な枯れ上がり(秋落ち)もみられています。地方の多くの圃場では稲わら鍬込が多く行われており、長期的にみれば堆肥と同様の効果があります。しかし、上記のような水田では堆肥の活用も考えましょう。ただし堆肥は施用時期によって効果が異なります。秋に稲わら腐熟促進のため施用する場合には地力窒素として蓄えられますが、春先に施用した場合には、窒素分が肥料的に働くので基肥窒素を減らす必要があります。

畑作物、野菜、露地花き、草地

まだまだ pH やリン酸改良が必要な畑地がある一方で、以前に改良され、リン酸は十分にあるが、その後の管理で酸性化が進んだと思われる畑地もあります。

酸性化が進んだ理由は、塩基資材施用不足、排水改良や窒素肥料分が多く塩基類の溶脱が増加したこと考えられています。作物によって適正な pH は異なりますので、適正な pH 維持に努めましょう。堆肥の中にも石灰や苦土が含まれているので、堆肥施用によってもある程度の酸性化は防止できます。窒素の利きすぎが心配な場合や、資材の腐熟度が心配な場合は、秋に施用しておくことにより、冬の間には窒素が土壌に取り込まれて地力窒素として窒素の肥効が穏やかになります。また、未熟有機物の弊害(タネバエ被害等)もかなり抑えることができます。

ハウス

連作が多く、地温が高く経過しやすいことに加え、屋根がビニルなどで被覆されているので、露地であれば雨水などで溶脱していくはずの養分がそのまま残って、蓄積しやすい環境にあります。管内のハウレンソウをはじめとするハウス土壌は肥料分が過剰に蓄積してきています。

これらの対策としては、除去窒素量はあまり大きくないですが、緑肥や輪作作物による持ち出しも有効です。また、深耕による希釈や客土もよいのですが、あくまで一時的な対策です。効果が大きいのは、被覆除去や多量かん水ですが、除去された肥料分が地下水等に流れ込む可能性があり、注意が必要です。

作物が吸収しても余ってしまう肥料分が多いことが原因なので、たい肥や肥料の施用量の削減、水管理等を見直しましょう。

堆肥の施用

土づくりの総合的な改良効果が期待される堆肥ですが、

- 土壌養分の過剰集積を避けるため、
- 堆肥中の成分を考慮してその分を減肥する
- 生育障害回避のためにも過剰に施用しない

ことが大切です。

これまでの肥培管理を再点検して、土壌養分が適正レベルにある場合には、「収穫して持ち出した分を施肥する」考えに転換していきましょう。

農地の再生・活用に向けて

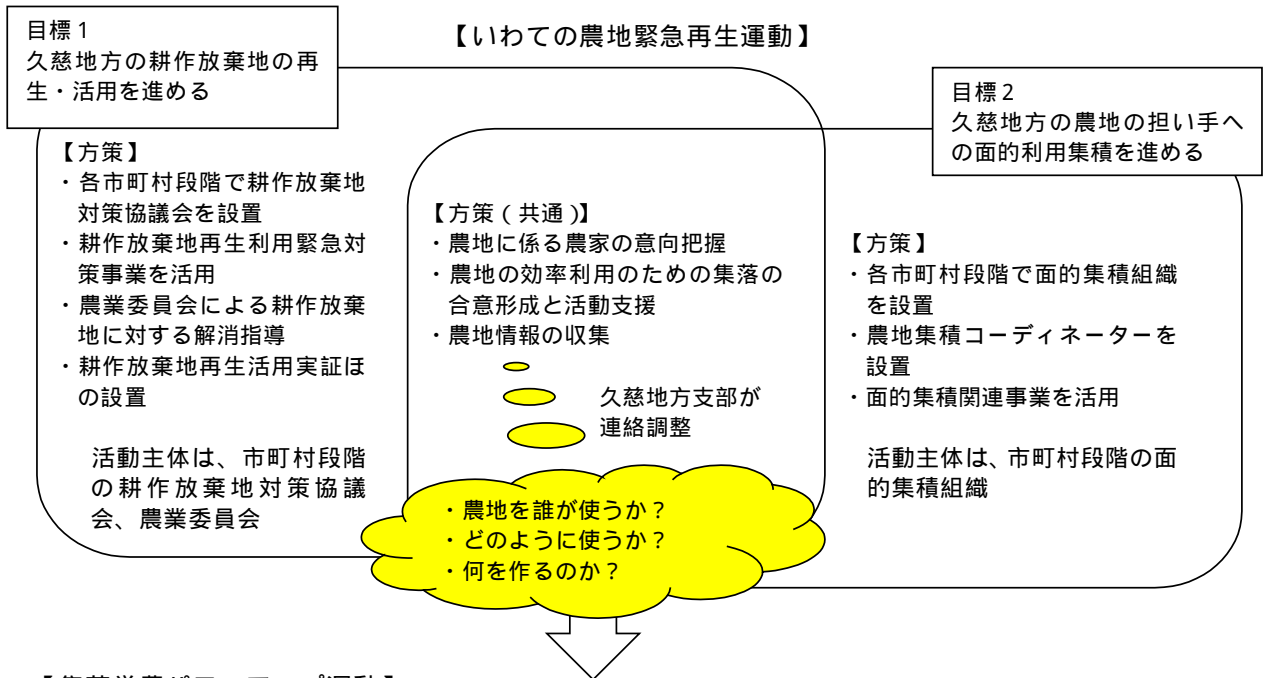
久慈地方の農業関係機関・団体が一体となって、農地の再生・活用や収益性の高い産地づくりに取り組んでいくため、平成21年11月18日に「岩手県農地再生・活用対策久慈地方支部」を設置しました。

久慈地方支部では、農業の持続的な発展を目指し、下図の運動を展開していきます。なお、耕作放棄地の再生作業、農地の面的集積にあたっては、それぞれ国の「耕作放棄地再生利用交付金」、「利用集積交付金」を活用することができます。

農地の再生・活用や産地づくりについて、お気軽にお問い合わせください。

【担当：久慈地方振興局農政部 0194-53-4983】

岩手県農地再生・活用対策久慈地方支部の活動



【集落営農パワーアップ運動】

